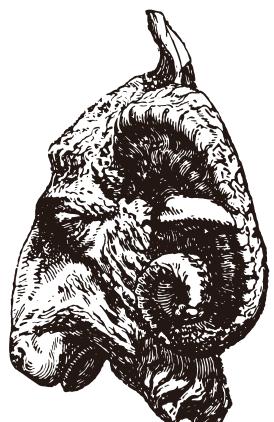


Bigakko Guide 2022

美学校
2022年度 10月期
募集要項



美学校



美学校基本構想

裾野に至って現代における美意識（倫理）への介入という想定に立ちつつ

現在の美学校を全構想かつ最高形態の追求として位置づける

教えをうけることを、みずからの意志として据えて、欲するものを得ることはあるとしても、

教えることをみずから意図し、果たしうるということはないのであって、

教える意思は、生徒の脳皮質をかすめて消えるのである。

総じて耳目を通し、すなわち空間を媒介として、達して頭脳にいたるコースにおいてそうなので、

脳皮質を駆撃して残るのはきわめて生理的な衝撃感ということだけであったり、

あるいは、金蒔絵に使う筆は舟ねずみの毛で作らなければいけない

といったことだけで終わるのである。

そこで、教えられる機関は考えるとしても、教える機関は考えるわけにはいかぬ。

そこで、最高の教育とは、教える意志をもたぬものから、

必要なものを盗ませるということになろうか。

美学校
1969 - 2022

第54期2022年度生徒募集にあたって

美学校は1969年に現代思潮社という出版社によって設立されました。設立された背景には、既存の学校教育に対するアンチテーゼがあったそうです。あつたそうだと伝聞形で書くのは、開校から50年を経たことによる人的、時代的な断絶があるからです。そして、それに伴って美学校も別の運動体へと変化してきました。

わたしたちは美学校をいわゆる「学校」という静的なものではなく、有機的な運動体として捉えています。ここでは美術や音楽を中心とした様々な教程を開講していますが、そこは技術や知識を体験的に身につける場であると同時に、様々な出会いや実験が起こり、そして自由と自治が存在する場にしたいと思っています。自由と自治というと難しく聞こえるかもしれません、自分たちが美術や音楽を通して勝手気ままに楽しむための場所を作りたいということです。自分が楽しむということは、興味を持って楽しめる何かを発見するということです。そして、その興味が他者や社会へと繋がることによって、世界が広がっていくのだと思います。それはわたしたちが50年以上に渡って歩んできた道でもあります。

受講にあたっては、ただ絵を描きたい、音楽を学びたいといった理由で充分です。その気持ちが大切だと思います。経験や年齢は誰も気にしませんので、勇気を持って飛び込んでください。初めてここを訪れる人はきっと美学校を変わった場所だと思うことでしょう。それは校舎が築50年以上の古いテナントビルのワンフロアであったり、古本やチラシや何だかよくわからない物あまりにも雑然としていたり、フランクな講師やスタッフがいたりするからかもしれません。ですが、そんな光景も見慣れてしまえば、特別なものではなくなります。学校では、あれをしてはいけない、これをしてはいけないと言われてきたと思いますが、本当にしてはいけないことなんてそういうはずです。ここは自由です。

教程は5月から始まり翌年の3月で终わります。この一年は長いようで短いです。美学校での一年間をどう過ごすか。それはあなたの想像力と行動次第です。みなさんや講師はもちろん、関係する様々な人々、そしてわたしたち自身にとって、これからが面白くなるようわたしたちは尽力します。

入 学 案 内

2022 年度 10 月期教程の受講を希望される方は、入学規定をお読みになってから以下の手順で入学手続きを行ってください。（オープン講座は入学手続きは不要です。WEB サイトの講座ページより直接お申込みください。）

入学手続きの手順

1、申込み

申込み方法は二種類あります。以下のどちらかの方法でお申込みください。

・入校志望書によるお申込み

入校志望書に必要事項を記入し事務局に提出してください。入校志望書がない方は郵送いたしますので事務局までご請求ください。

・受講申込みフォームによるお申込み

WEB サイトの受講申込みフォームに必要事項を入力して送信してください。WEB フォームから申込された場合、入校志望書を提出する必要はありませんが、初回授業日に証明写真をお持ちください。

2、学費・教程維持費の納入

お申込みと同時に、規定の学費・教程維持費を納入してください。学費・教程維持費の納入をもって入学手続き完了となります。入校志望書を郵送された方、フォームから申込まれた方は、一週間以内に学費・教程維持費を納入してください。複数教程の受講などで納入額が不明な場合は事務局にお尋ねください。

3、手続き完了後から受講までの流れ

編入の初回授業日は 10 月初旬～中旬となります。手続き完了後にメールにて授業日と持ち物のご連絡を差し上げます。郵便での連絡を希望する方は、お申込み時にお伝えください。

入学手続き締切り

2022 年度 10 月期 一次締切り 2022 年 9 月 30 日（金）

※一次締切りの時点で定員に達していない教程は、追加募集をする場合があります。

※学期が始まってから受講を希望する場合は、事務局にお問い合わせください。教程によっては受け入れ可能な場合がございます。その場合、時期、学費などご相談に応じます。

入校志望書の提出先・学費の納付先

《提出先・納付先》

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第 2 富士ビル 3F 美学校 本校 事務局

《振込み口座》

三菱 UFJ 銀行 神保町支店 （普通）2330142 有限会社美学校 [ユ) ビガツコウ]

入 学 規 定

資格

各教程のカリキュラムに指示するもの以外、学歴・年齢・性別その他の制限はありません。

期間

授業は10月から翌年3月までの定められた日程に行われますが、その間原則として12月25日から1月4日まで休みとなります。

入学手続き

入校志望書の提出、あるいは受講申込みフォームからの申込みと学費・教程維持費の納入をもって入学手続きとします。申込みは先着順で受け付け、各教程の定員に達し次第募集を締め切ります。入学手続きをもって本規定に同意したものとします。

定員

各教程の定員はカリキュラムに明示します。ただし、申込者数が最小開講人数に達しない時は開講しない場合があります。

学費および教程維持費

・構成

学費は、授業料、設備費によって構成されます。学費の他に教程維持費がかかります。

・納入方法

学費・教程維持費は、現金、銀行振込、クレジットカード（VISA、MASTER）のいずれかにて、全額を一括でお支払ください。

・割引

過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、学費の割引が適用されます。

・返金

一旦納入された学費および教程維持費は以下の場合を除きご返金はいたしません。

・定員超過によって受講ができなかった場合

・申込み教程が最小開講人数に達せず開講しなかった場合

・講師の急病等の理由により開講が困難となった場合

※病気や転勤などのやむを得ない事情により受講をやめる場合は、医師による診断書や勤務先の辞令等の提示があれば、残り授業回数の80%の学費をご返金いたします。

※オープン講座は異なります。当校WEBサイトの「特定商取引法に基づく表記」ページをご参照ください。

・分納

分納を希望する方は、事前に事務局にご相談ください。分納は原則的にクレジットカードによるお支払いのみとなります。クレジットカードのお支払いは一括のみの対応です。ご自身でお支払い方法を分割もしくはリボ払いに設定していただくことにより、分割払いが可能となります。学生の方でクレジットカードの限度額が足らない方は、別途ご相談ください。

在籍証明

教程の3分の1以上を欠席した生徒は、本校に在籍したこと認めない場合があります。

注意事項

申込み内容に虚偽があった場合は入学資格を取り消すことがあります。自己の入学資格および在籍資格を他人に譲ることはいかなる場合も認めません。本校に不利をおよぼし、あるいは、みだりに授業を妨害するなどの行為をした生徒は、本校の指示により除籍される場合があります。

2022 年度 10 月期教程（2022 年 10 月～2023 年 3 月）

※ 13 教程の中から複数教程の受講も、1 教程のみの受講も可能です。

※ 10 月期募集教程は、実作講座「演劇 似て非なるもの」除き、5 月より開講している通年教程への編入となります。

〈絵画〉

- 造形基礎 I
- 細密画教場
- 生涯ドローイングセミナー
- 超・日本画ゼミ
- ペインティング講座

- イベント・プロデュース講座

- デザインソングブックス

〈版画／写真〉

- 石版画（リトグラフ）工房
- 銅版画工房
- 版表現実験工房（銅版画）
- シルクスクリーン工房
- 写真工房

〈作曲／作詞〉

- 楽理基礎科（オンライン／対面）
- 楽理中等科（オンライン／対面）
- 作曲演習（オンライン）
- 歌う言葉、歌われる文字（オンライン／対面）
- 實践！自己プロデュースと作品づくり（オンライン）

〈現代美術〉

- アートのレシピ
- ビジュアル・コミュニケーション・ラボ
- 芸術漂流教室
- 未来美術専門学校
- 現代アートの勝手口

〈DTM〉

- 魁！打ち込み道場（オンライン）
- サウンドプロダクション・ゼミ（オンライン）
- アレンジ＆ミックス・クリニック（オンライン）
- レコーディングコース・プレミアム（オンライン）

〈研究室〉

- 美楽塾
- 境界芸術への旅——アートとデザインと民俗学と人類学

〈様々な分野〉

- 実作講座「演劇 似て非なるもの」
- 劇のやめ方
- 建築大爆発
- アートに何ができるのか
- モード研究室《ファッショントリビュート》
- 特殊漫画家 - 前衛の道
- テクニック&ピクニック
- 意志を強くする時
- 「おもちゃ」と「テストプレイ」のアートへ

■ オープン講座

* 10 月期教程以外にも不定期で様々なオープン講座を開講しています。オープン講座は誰でも受講可能です。詳しくは WEB サイトをご覧ください。

2022 年度 5 月期 時間割

	13:00 ~ 17:00	18:30 ~ 21:30, 19:00 ~ 22:00, 19:00 ~ 21:30, 他
月	・シルクスクリーン工房	・芸術漂流教室 ・美楽塾（※ 1） ・特殊漫画家 - 前衛の道 ・テクニック & ピクニック ・サウンドプロダクション・ゼミ
火	・石版画（リトグラフ）工房 ・ビジュアル・コミュニケーション・ラボ	・実作講座「演劇 似て非なるもの」 ・劇のやめ方 ・アートに何ができるのか ・「おもちゃ」と「テストプレイ」のアートへ ・魁！打ち込み道場
水		・細密画教場 ・版表現実験工房 ・楽理基礎科 ・楽理中等科 ・作曲演習
木	・銅版画工房 ・ペインティング講座	・生涯ドローイングセミナー ・実践！自己プロデュースと作品づくり ・アレンジ & ミックス・クリニック ・境界芸術への旅 ・イベント・プロデュース講座
金	・写真工房	・建築大爆発 ・現代アートの勝手口 ・歌う言葉、歌われる文字 ・レコーディングコース・プレミアム
土	・造形基礎 I ・アートのレシピ ・未来美術専門学校（※ 3）	・超・日本画ゼミ（※ 2） ・未来美術専門学校（※ 3） ・モード研究室
日	・超・日本画ゼミ（※ 2） ・未来美術専門学校（※ 3） ・意志を強くする時	・未来美術専門学校（※ 3）

※ 1 「美楽塾」の授業曜日・時間は、回によって変更になる場合があります。

※ 2 「超・日本画ゼミ」の授業曜日・時間は、毎週土曜日 18:30 ~ 21:30（毎月第三週は日曜日 13:00 ~ 17:00）です。

※ 3 「未来美術専門学校」の授業は、時間換算で 2 ~ 4 回分の授業を土日の二日間で行います。開催週はスケジュール調整を行います。授業の開始時間、終了時間は変動します。授業は 8 月も開催予定です。

学費は、授業料、設備費によって構成されます。学費総計の他に教科維持費がかかります。教科維持費は各教科のページに記載しております。過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、学費の割引が適用されます。

● 1教科を受講する場合は次の学費となります。

	教科名	授業料	設備費	学費総計
A 教 程	造形基礎Ⅰ	180,000	5,000	185,000
	細密画教場	180,000	5,000	185,000
	石版画（リトグラフ）工房	180,000	10,000	190,000
	銅版画工房	180,000	10,000	190,000
	版表現実験工房（銅版画）	180,000	10,000	190,000
	アートのレシピ	180,000	5,000	185,000
	ビジュアル・コミュニケーション・ラボ	180,000	5,000	185,000
	芸術漂流教室	180,000	5,000	185,000
	実作講座「演劇 似て非なるもの」	180,000	10,000	190,000
	生涯ドローイングセミナー	募集なし	募集なし	募集なし
	超・日本画ゼミ	募集なし	募集なし	募集なし
	ペインティング講座	募集なし	募集なし	募集なし
	シルクスクリーン工房	募集なし	募集なし	募集なし
	写真工房	募集なし	募集なし	募集なし
	未来美術専門学校	募集なし	募集なし	募集なし
B 教 程	現代アートの勝手口	募集なし	募集なし	募集なし
	モード研究室	募集なし	募集なし	募集なし
	テクニック&ピクニック	募集なし	募集なし	募集なし
	劇のやめ方	90,000	5,000	95,000
	建築大爆発	90,000	5,000	95,000
	アートに何ができるのか	90,000	5,000	95,000
	美楽塾	90,000	5,000	95,000
	楽理基礎科	募集なし	募集なし	募集なし
	楽理中等科	募集なし	募集なし	募集なし
	作曲演習	募集なし	募集なし	募集なし
	実践！自己プロデュースと作品づくり	募集なし	募集なし	募集なし
	魁！打ち込み道場	募集なし	募集なし	募集なし
	サウンドプロダクション・ゼミ	募集なし	募集なし	募集なし
	アレンジ&ミックス・クリニック	募集なし	募集なし	募集なし
	レコーディングコース・プレミアム	募集なし	募集なし	募集なし
	特殊漫画家 - 前衛の道	募集なし	募集なし	募集なし
	「おもちゃ」と「テストプレイ」のアートへ	募集なし	募集なし	募集なし
	イベント・プロデュース講座	募集なし	募集なし	募集なし
	境界芸術への旅	募集なし	募集なし	募集なし

D 教 程	歌う言葉、歌われる文字 意志を強くする時	募集なし 募集なし	募集なし 募集なし	募集なし 募集なし
-------------	-------------------------	--------------	--------------	--------------

- 2 教程を受講する場合は以下の学費となります。
- 3 教程以上の受講を希望する場合は事務局までお問い合わせください。

教科分類	授業料	設備費	学費総計
A 教程 + A 教程	240,000	10,000	250,000
A 教程 + B 教程	240,000	10,000	250,000
B 教程 + B 教程	155,000	10,000	165,000

※教科維持費は各教科ごとにかかります。教科維持費は各教科のページに記載してあります。

- 過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、下記の通り学費の割引が適用されます。

教科分類	学費総計 → 割引後学費総計
A 教程	185,000 → 155,000
	190,000 → 160,000
B 教程	95,000 → 80,000
A 教程 + A 教程	250,000 → 215,000
A 教程 + B 教程	250,000 → 215,000
B 教程 + B 教程	165,000 → 155,000

※教科維持費は各教科ごとにかかります。教科維持費は各教科のページに記載してあります。
※教科維持費の割引はありません。

説明会／見学・受講相談

説明会

下記の日程で募集教程の説明会を開催します。受講方法や各講座についての説明に加えて校舎案内を行います。説明会後には個別の入学相談も可能です。各回 90 分程度／定員 8 名。会場は本校です。ZOOM によるオンラインでのご参加も可能です。

参加をご希望の方は QR コードからか、メールか電話にてお申し込みください。

説明会 申込み QR コード



・9月1日（木）

19:00～ 《絵画、版画》

19:40～ 《現代美術、様々な分野、研究室》

・9月16日（金）

19:00～ 《絵画、版画》

19:40～ 《現代美術、様々な分野、研究室》

見学・受講相談

授業見学および受講相談は随時受け付けております。

学校の雰囲気、講座の内容から、どの講座が合っているかなどの個人的なご相談まで、受講をご検討中の方もそうでない方も、お気軽にお越しください。

ご希望の方は QR コードからお申し込みになるか、メールか電話にて希望日をお問い合わせください。

受講相談はオンライン（ZOOM）でも可能です。

※ 8月は夏季休暇で授業がないため見学は学内のみ可能です。

見学・受講相談 申込み QR コード



造形基礎Ⅰ

鍋田庸男

定員：12名

授業日：毎週土曜日 13:00～17:00

教課程維持費：5,000円（通額）

開催教室：本校

造形基礎とは、形（カタチ）を造る基（モト）という意味です。

形=カタチとは「表わされ、現れたもの」すなわち表現されたモノです。

一枚の葉っぱを手に持ります。目で、指先で、肌で、それぞれの記憶と、経験と、知識で、テーマは個々のうちにあって、無数のカタチをひきだすことが可能でしょう。見て、掘んで、感じて、思索する。表現するということは「カラダまるごと」のことです。

表現とは「もっと、いろいろなこと」であっていい。

ここではまず木炭で描くことからはじめます。

上手に描くことではありません。モノ（事）と対峙し、観察し、考察し、記録することです。表現とは、技術ではありません。技倆は、自らの表現と共に成長するものです。まずははじめに大切なことは、技術や描き方ではなく、対象への接し方であり、対象との交流とその共有を楽しむことです。

ボクサーは、はじめに、なわ跳びを繰り返し行います。より強靭な精神、より柔軟な体、的確なパフォーマンスは、そのうえに築きあげられるものです。

対象へのひとつひとつのアプローチの繰り返しのなかから、より自由で、真に独創的な自分のカタチを求めて、表現者としての、最初の意志と体力を、見つけ出し確立してもらいたいのです。

私達が表わす「カタチ」は未知なるものへの冒険です。

やればやるほど、本気になればなるほどオモロイもんです。

今、私達が「やること」は、いっぱいあります。

授業内容

○表現現場に身をおくこと

○課題をその場で制作する

○速描画=短時間にたくさんのドローイング

精神集中、習性の確認と放棄、手の訓練、頭の柔軟体操とオートマティズム

【前期】

◆植物・静物・人体による観・考・描察画
モノを見て触れて表現者としての最初の自覚をうながす

【中期】

◆色・形・素材そして対象と表現について
◆モチーフそれ自身の設定（表現）
「描く」という行為から「つくる」という表現へ
◆切る・貼る（色紙その他）立体もしくはレリーフ

【後期】

◆自由制作
ロールペインティング=つづき絵（絵巻物）の制作

造形基礎Ⅱは「ものづくり」への構想をもって活動します。

鍋田庸男

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート、講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 造形基礎 レポート（またはインタビュー）

細密画教場

田嶋徹

定員：12名

授業日：毎週水曜日 18:30～21:30

教程維持費：5,000円（通額）

開催教室：スタジオ

細密画は鉛筆や絵具の粒子を一筆一筆おいていき、長い時間かけて一つの作品を仕上げる根気のいる作業です。

まずものをよく見て、それを手に伝え、紙に描かれた像を見ることが脳にフィードバックされて、さらにものの見方が深化していく。

細密画の描き方を言葉にすると、このようになりますが、実際には一連の作業を、無意識下に、並列的に行っています。

そのような作業の回路が体の内にできて、いつでも取り出せるようになることそれが技術が身につくということです。

一年間で完成するというものではありませんが、その回路はこれから独自の技を磨いていくきっかけになるようなものです。

授業は週に一回しかありません。その何倍も自習しなければ一年が無駄になりますのでそのつもりで。

田嶋徹

授業内容

下書き

- モチーフをどの大きさで描くか、から始めて細部いたるまで、フリーハンドでかたちをとる技術
- 道具を使ってモチーフを計測して描く技術

鉛筆

- 明暗の階層表現、質感表現の技術

水彩

- 色調表現、質感表現の技術

その他

- 平面画像の模写
- 不透明絵具の描法

[生徒持ち用具・材料]

鉛筆各種・カッターナイフ・芯研ぎ器・練りゴム・消しゴム・羽ばうき・スケール定規・比例ディバイダー・トレーシングペーパー・カーボン紙・ケント紙・固形透明水彩絵の具各色・コリンスキーピン・ベニヤ板・水張りテープ・刷毛・アルシュ紙極細目・筆洗い器・梅皿
その他

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート、講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 細密画 レポート（またはインタビュー）

石版画（リトグラフ）工房

佐々木良枝+増山吉明

定員：10名

授業日：毎週火曜日 13:00～17:00

教程維持費：10,000円（通額）

開催教室：本校

石版画（リトグラフ）は、平版の版画です。平らな版材の上に油成分を含む画材（墨、クレヨン、鉛筆等）で描いたものを直接版にして刷ります。クレヨンや鉛筆で描いたドローイングの自由な線や風合いを出すことができ、また、筆やペンで描いた水彩画のタッチやにじみ、複雑な色合いを出すこともできます。版画の技法の中でもっとも絵画に近いといえます。

石版画（リトグラフ）は水と油が反発する原理を応用し、描いた絵を化学変化させて版にし、描画部分にのみインクを付着させ、プレス機で刷ることで絵を創ります。化学変化をさせて作る版である為、描かれた画面が自分の意に反して、抑揚の無い平板な調子の乏しいものになったり、絵が壊れたりすることもあり、「描き」「版作り」「刷り」の技術や知識を習得する必要があります。

当工房では、石の版を使って技法を学びます（特殊な石であることや作業に水場なども必要なため、石を使っての作画が出来る工房はありません）。石の版、また、金属版（アルミ版）、を使った技法やP S版による写真製版技法も学びます。それできあがる版の具合が違うので、特質を知り、活用できるとより幅広い表現方法を持つことができます。

石版画（リトグラフ）は、さまざまな"描く"で自分の絵画表現を探求することが可能です。描くでも版を媒介とするので、思いがけないものにも出会ったりする喜びがあります。自分のイメージに接近していくには、手を動かし絵を描き、絵を創りあげていくことです。そうすることで、自分の方法を見つけていくのではないでしょうか。

佐々木良枝

授業内容

【前期】

- 石版による制作（石の研磨・描画・製版・刷り）クレヨン画、ペン画、解き墨画
- P S版（写真製版）による制作（描画・感光製版・刷り）コラージュ、フロッタージュ、ドロッピング等

【中期】

- 石版石による制作
- P S版多色刷りによる制作
- 表現について考え、自分の表現方法の模索・構築
- アルミ版による制作

【後期】

- 自由制作
- 制作発表の方法論学習（作品の見せ方、空間づくり等）

【生徒持ち道具・材料】

描画材料 クレヨン・解き墨・筆・インク・アルミ版・P S版その他
版画用紙 あて紙・試し刷り用紙・本刷り用紙

表現のために／自分を貯める—構築する

- 探し取材する・切り取る・決める・盗み見る等の作業
「かわいい」「きれい」「かっこいい」「おもしろい」自分が心惹かれるもの、おもしろいもの…自らを動かしする動機（モチーフ）
- よく観察する・考察する・認識する
何故それがいいか、どんな方法だから、こんな風に見えるのか、自分の嗜好、好むのをより認識する
- 言葉にする
観察して、考察して認識したものを言葉にする。思考し、曖昧とした考えを明確化する、潜在意識が引き出される
記憶は薄れる、言葉にしたもののは残る
人に自分の言葉を示し、人とディスカッションすることで、より明確化し、付け加えられる
- 貯めていく
貯めたものを増やしていく、連想を広げ、よりイメージ化する、たまたま情報を編集する。どんな表現方法で何を表現するか思考する／一つの表現方法として、この工房では、リトグラフを制作する。

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート掲載中

→ 検索 美学校 リトグラフ レポート

銅版画工房

上原修一

定員：10名

授業日：毎週木曜日 13:00～17:00

教程維持費：10,000円（通額）

開催教室：本校

銅版画という方法を使った「絵」を制作します。

銅版画の特徴として、ひとつは凹版であることがあげられます。もうひとつは、ほかの版種と同様に「版」を用いた間接表現であることです。約1ミリの厚さを持った銅の板の表面に、何らかの技法で点や線を刻みつけます。

制作者のイメージや意図に基づいて点や線が刻みつけられた瞬間に、銅の板は「版」に変わる。その、点や線（凹部）に銅版画用インクを詰め、紙に絵柄を刷り取ります。

大切なのは、いかに美しい版を作るかではなく、その版を通して刷り上げられたもの（つまりは作品ですが）が「表現」になっているかどうかということです。

直接描いたのでは決して得られない点や線、あるいはマチエールを生み出す力を銅版画は持っています。

あくまでも基本的な銅版画の技法に拘りながら、さらにその可能性について考えていきます。

授業の前半期では、ドライポイント、エッチング、アクワチントといった銅版画の基本技法と、インクの詰め、拭き、修正、プレス機の取り扱いなど、刷りの基本技術とを学びます。なるべく早い時期に、工房での自習が出来るスタンスを確立します。

後半期は、ディープ・エッティング、ソフトグランド、写真製版、コラグラフなどの版作りの応用技法と、多色刷り、雁皮刷りなど様々な刷り方について学びます。多様な銅版画のテクニックを、体験則としてひと通り知って貰うためのプログラムを展開します。

ときどき合評会もやります。けれど、課題のようなものを求めるとは一切しません。

作りたい人の作りたい気持ちを最優先に実現できる、本当の意味での自由な工房を目指しています。

受講生同士はもちろん、受講生と講師も、忌憚なくお互いを評価、批評し合える関係でありたいと思います。

確信的なものでも、あるいは全く漠然としたものでも構いませんが、銅版画に対する憧れを持った人の受講を望みます。ここは一度嵌まつたらとにかくなかなかに深い場所です。



クラウン

エッティング、アクワチント、ドライポイント、コラグラフ
558mm × 450mm
ed.12, a.p.3 2版2色刷り サマセット紙



トーフルの下の私の荷物

エッティング、アクワチント、ディープ・エッティング、ソフトグランド、コラグラフ
725mm × 593mm
ed.2, a.p.なし 17版2色刷り 雁皮漉き合わせ紙

上原修一

☆もっと詳しく知りたい方は ...

WEBで講座レポート掲載中

→ 検索 美学校 銅版画 レポート

版表現実験工房（銅版画）

清野耕一

定員：10名

授業日：毎週水曜日 18:30～21:30

教程維持費：10,000円（通額）

開催教室：本校

銅版画（凹版）の制作は、薄い銅版表面で繰り広げるマイナスの作業といえます。直接鋭利なニードルで引搔いたり、強酸の力で腐食（エッチング）したり、様々な薬品や道具を使い随分と手荒なプロセスを踏みます。このように出来上がる銅版の原版は、その凹部に詰められたインクとエッチング・プレス機の物凄い圧力によって、最終的に紙の表面に反転しプリントされます。・・・・この瞬間、皆さんには銅版画の表現効果に魅了されるでしょう。鋭く自在な線、微妙で繊細な濃淡面、重厚な質感。

・・・・その転写されるイメージは、ドローイングやペインティングと全く異なるからです。

世界的なIT化とグローバル化が急速に進む中で、私達の日常生活にも「デジタル・カルチャー」が浸透し大変化をもたらしています。「効率化・便利さ」を追求する社会的なうねりは、一方で機械に頼りながら、汚れ仕事を嫌い、面倒くさいことを避ける行動を私達に植え付けていると云えるかもしれません。「自らの手を使い、身体を動かし、汗を流し戦闘する姿勢」を拒む風潮の中で、大切な何かが失われようとしているのでしょうか。

「版表現実験工房」は、そんな問い合わせに対応しながら、初心者のみならず、銅版画や他版種の経験者にも門戸を広げる場です。銅版画制作のための技術力を習得するだけでなく、直接銅版と触れ合うことによってモノ作り本来の楽しさを経験し、美術表現を創造する「発見」の場を目指します。同時に、絶え間ない地道な制作を通じて「自己を見つめる姿勢を培うこと」に重点を置きたいと考えています。

従来の「オリジナル版画」（平面・複数性を土台とする版画表現）の垣根を取り払い、柔軟に他のメディアとの交差を図り、新たな表現スタイルを研究し模索する実験的な制作現場になることを目標とします。この工房の参加者は、より積極的な制作意欲と発表の機会設定が求められます。

参加者の年代・経験・背景を超えて「互いが刺激・影響し合える制作現場」になることを期待します。

清野耕一

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 版表現 インタビュー

授業内容

【前期】

彫刻技法の基礎研究と制作（ドライポイント・メゾチント）
腐蝕技法の基礎研究と制作（エッチング・アクアチント）
☆前期講評会

【中期】

腐蝕技法の応用研究と制作（リフトグランド・ソフトグランド）
刷り技法の応用研究と制作（雁皮刷り・凹凸版刷り・多色刷り）
☆中期講評会

【後期】

写真製版技法の研究と制作（フォトエッティング）
併用技法による自由制作
☆後期講評会

【研究課題】

- A) 複数性と間接性
- B) 版の表面性と被写体
- C) 3次元の平面構成
- D) メディア・ミックス

【生徒持ち道具・材料】

銅版・版画用紙・ニードル・スクレッパー・バニッシャー・作業着・腐蝕用ゴム手袋 他

アートのレシピ ～松蔭浩之のラディカル・ヒストリー・アワー～ 松蔭浩之+三田村光土里

定員：12名
授業日：毎週土曜日 13:00～17:00
教程維持費：5,000円（通額）
開催教室：本校

せっかくだから、ちょっと変わったことを言っておこうと思います。いや、そもそもこの「変わったこと」について思いを巡らせること、人のやつてないことを考えだして、ひねりだして形にすることこそがARTの真髄なん……その、「変わったこと」ですから、最初は全くもって理解不能かも知れず、あなたの普段の価値観とか常識とか正義感とか人生設計とかとはけっこうズレたりしているかもしれない。けれども、気持ち次第では実に面白可笑しい人、作品、出来事、あなたのきっと知らない古今東西の本物の変わりモノを紹介しつつ、やはり「変わった」考え方、見方、とらえ方をしてみることで、新しい刺激的な経験になりうるというお話を長い間続けています。

例えば、100年ちょっと前になりますが、ヨーロッパで起こった反芸術活動『DADA』と、1960年代に日本で制作放送された子ども向けテレビ番組『ウルトラマン』との関連を考察し、「怪獣」を解剖してみるとか、「80年代初頭に全世界的に突然変異のように起こった、DIY精神に満ちあふれたロックバンドやミュージシャンたちの奇跡から学ぶとか、私が19歳から3年間師事した森村泰昌はじめ、先人たちから培つて確立した「私の写真論」をもとにセルフポートレイトを実践する……など、松蔭浩之の自己史における、ラディカルな事象を吟味検証して紹介、流行り廃りに左右されない普遍性の探求、その追体験と伝承、すなわち、ラディカル・ヒストリー・アワーを共有することが、この講座最大の特徴です。

この『レシピ』では、俗にいう「現代アート」に限らず、音楽、映画、サブカルもアングラも含めた文化全般を視野に入れた講義、ワークショップを実施します。かならずしもアーティストを養成することが目的ではないですが、節々でアートの実践を体験してもらうことで、クリエイティビティ（＝創意工夫）の本質を知ることを目指します。

不定期に開催の「三田村光土里のときどきアートサロン」では、三田村光土里が豊富な経験とインスピレーションで、制作のお悩みをコンサルティングします。

変わったことが好きではない。もしくは、変わることを恐れる方にはオススメできませんが、好奇心おう盛で柔軟な思考性を持つあなたには最適の講座になることでしょう。

松蔭浩之



松蔭浩之（まつかげひろゆき）

現代美術家、写真家。福岡県出身。

1988年大阪芸術大学写真学科卒業。

1990年アートユニット「コンプレッソ・プラスティコ」でベネチア・ビエンナーレに世界最年少で選出される。以後、数多くの国内外個展やグループショウ、シンガポール・ビエンナーレ（2006年）ほか国際芸術祭に参加。写真作品を中心にインスタレーション、パフォーマンス、ミュージシャン、執筆、グラフィックデザイン、俳優、映画監督など多岐に渡って活動を続ける。アートグループ「昭和40年会」（1994年結成。現メンバーは会田誠、有馬純寿、小沢剛、大岩オスカール、パルコキノシタ、松蔭浩之の6人）では会長を務める。

宇治野宗輝とのロックデュオ「ゴージャラス」（1997年結成）では国内外でのライブを盛んに行つた。また、2016年再始動したポストインダストリアルグループ「PBC」（1987年結成）でも演奏活動を続ける。俳優としては金子雅和監督『アルビノの木』など数々の作品に出演。監督作品は、画家の会田誠を主演に起用した『砂山』（2012）、若林美保主演の『LION』（2018）がある。

三田村光土里（みたむらみどり）

愛知県生まれ 東京在住

「人が足を踏み入れられるドラマ」をテーマに、写真や映像、言葉や日用品などの多様なメディアで構成した空間作品を国内外で発表。私的な追憶から浮かび上がる不在感や、日常の哀愁や感傷を観る人の内側に投影する。

世界各地で人々と朝食を共にする滞在制作“Art & Breakfast”では、フィールドワークで集めた材料でインスタレーションを作り続け、文化的な境界を越えて共感する価値観をユーモアと批評的な眼差しで俯瞰する。

2003年、日本の新進作家展・vol.2（東京都写真美術館）。

2005年、文化庁新進芸術家海外派遣（フィンランド三都市巡回個展）。2006年、ウィーン分離派館・セセッションにて個展。2011年、二国間交流流事業プログラム派遣（メルボルン、オーストラリア）、あいちトリエンナーレ2016。2017年、ウィーン美術アカデミー滞在招聘作家。2019年、Japan Unlimited展（ミュージアム・クオーター・ウィーン）、他多数。

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート、修了生座談会掲載中

→ 検索 美学校 アートのレシピ 講座レポート

ビジュアル・コミュニケーション・ラボ ～ゼロから始める現代アート制作～

斎藤美奈子

この講座は、作品制作を中心に、現代美術に関する講義をはさみながら進めています。最終的に、それぞれがテーマを見つけ、美術作家として創作していくために必要な力を身につけることを目的としています。

あなたの興味や関心、あるいは、心のなかにある大切な何かを拾い上げて、どんなふうでも構いません、それを目に見える形にしてみる。まず、そこからスタートしましょう。そして、それを、より明確なものにしていく作業を繰り返して行きます。"作品"と呼ばれるものは、そうして出来上がったものることをいうのだと思います。

具体的な表現手法は、インスタレーション、立体、絵画、写真、ビデオなどといった、さまざまなものを見ながら、自分に最適なものを見つけてください。可能性の芽を膨らませ、独自の表現を可能にするため、制作の方向性や進度は個別に対応することを基本とします。みなさんに伴走しながら、その道案内ができれば、と考えています。

一年を通じて前半は、緩やかなカリキュラムに沿ったもの。後半は、各自のテーマで制作ていきます。最後には、展覧会を開催し、その成果を発表します。みんなで展覧会を見に行ったり、また、個展やグループ展の開催、レジデンスへの参加などといった校外での活動も応援します。

興味はあったけれど、作品なんて今まで作ったことがなかったという人から、すでに作品を発表している人まで、美術というものに少しでも興味があれば、どなたでも大歓迎です。

授業内容

■ 作品制作

- 1 : 受講生からヒアリング
……作りたい作品の傾向などを確認していく
- 2 : 講師と受講生で話し合い課題を煮詰める
- 3 : 課題による作品制作
例・風を描く、表現する
 - ・目で見ず触って物を描いてみる
 - ・身近な素材を使った表現
 - ・写真を使った表現
- 4 : 各自の課題で作品制作
- 5 : 修了展開催

■ ミニ講義

- 1 : リカちゃんハウスとドールハウス
……国や地域による空間認識の違い
- 2 : 書道は芸術か?
……アートの定義とは何か
- 3 : 写真
……その出現でアートはどう変わったか
- 4 : 現代美術の流れ
……1950年代以降の変遷と作品紹介

斎藤美奈子

☆もっと詳しく知りたい方は ...

WEBで講座レポート、講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 ビジュアル レポート (またはインタビュー)

定員：10名

授業日：毎週火曜日 13:00～17:00

教課程維持費：5,000円（通額）

開催教室：本校

芸術漂流教室

倉重迅+田中偉一郎+岡田裕子

定員：9名

授業日：毎週月曜日 19:00～22:00

教課程維持費：5,000円（通額）

開催教室：本校

「芸術漂流教室」は、倉重迅、田中偉一郎、岡田裕子を中心に、ゲスト講師も招きながら展開していきます。3種の異なる講座で構成されるこの教室は、一粒で3度おいしく、3倍以上の楽しみ方があるはずです。現代美術の領域で活動しながら他ジャンルにも軸足を持つ、無駄に経験値の高い講師陣とともに「楽しく」「真面目に」漂流しましょう。

ArtLife Hacks (ALH) 講師＝倉重迅

アートを通じて人生のクオリティを高める講座です。アートは決して美大卒やフルタイムアーティストだけのものではありません。考える、議論する、制作する、発表することなどを通して自分自身とアートとの最適な付き合い方や距離感などを見つけ、各々の人生にフィードバックすることができたら、と思います。私自身は映像畠の人間ですが、映像制作やワークショップはもとより、インスタレーションや立体作品などジャンルを問わず扱っていきます。

芸術小ネタ 100 連発小屋 講師＝田中偉一郎

強い作品づくりの発想をひろげるための講座です。発想の定番から、自由度の高い制作法などを、講義や実践、大喜利形式で進め、ときには3時間で制作も行います。多くの作家は、役に立たないプロセスやくだらない考えを、作品からなくそうとします。しかし、良い作品の良い青臭さやおもしろいやりすぎ感、圧倒的な存在感は、意外とそんなところから生まれたりするものです。発想の仕方がわからない人、アイデアはあるけどうまく形にできない人、ものづくりに行き詰まっている人、ただなんとなく刺激が欲しい人が、気楽にでも、熱意を持ってでも参加できる、「でまかせ」を実行する世界で唯一の芸術講座です。

ヒロコセンセイの芸術相談教室 講師＝岡田裕子

授業内での短期ワークショップや、各自の作品制作を通じて、美術作品を作ること、観ることの根本を考える授業です。現代の美術表現の現状も伝えていきます。

受講生ひとりひとりが、これからどう生きてゆこう、これからどう変化しよう、などを抱えています。そういう想いに対して、美学校の少人数制という利点を活かし、それぞれに丁寧に対話してゆきたいと思います。美術やその周辺領域に関しては、岡田裕子自身も表現形態や活動範囲が多岐にわたっておりますので、受講生各々に對して多様な可能性を提案しながら、実践的なアドバイスもできたらと考えています。

倉重迅 アーティスト

1975年神奈川県生まれ。フランス国立高等芸術大学マルセイユ（ボ・ザール）D.N.S.E.P課程修了。シドニービエンナーレ、笑い展（森美術館）、one fine day（サムソン美術館、韓国）など、国内外の展覧会に参加。近年は、CMやPV、TVなど、アートとは異なる環境の中での映像制作にも携わっている。

田中偉一郎 現代美術家

1974年生まれ、うお座、B型、現代美術作家。2011年の個展「平和趣味」など、2000年以降、作品を発表しつづけている。「六本木クロッシング 2007」（森美術館）にてオーディエンス賞を獲得。著書に『スーパーふろくブック』（コクヨ）、『やっつけメーキング』（美術出版社）がある。「フォークデュオ永田」「日にちの歌」「ノーメッセージマン」などの音楽パフォーマンスもしており、その活動は、広く、浅い。

岡田裕子 現代美術家

ビデオアート、写真、絵画、インスタレーション、パフォーマンスなど多岐にわたる表現を用いて、自らの実体験——恋愛、結婚、出産、子育てなど——を通したリアリティのある視点で、現代の社会へのメッセージ性の高い美術作品を制作。国内外の美術館、ギャラリー、オルタナティヴスペース等にて展覧会多数。

実作講座 「演劇 似て非なるもの」 生西康典

定員：10名
授業日：毎週火曜日 19:00～22:00
教科維持費：25,000円（通額）
※ 教科維持費は制作実費を含みます。
開催教室：本校＋スタジオ

みなさんは「演劇」というと、どういったものを思い浮かべるでしょうか？

現在、あらゆるジャンルで自家中毒のような事態が起こっているように思います。その「ジャンル」を好きな人が、自分が知っているところの、もしくは自分が見たものを再生産、焼き直しをしているように見えます。

「演劇」が好きな人による「演劇」、「音楽」が好きな人による「音楽」、「映画」が好きな人による「映画」、「小説」が好きな人による「小説」、「漫画」が好きな人による「漫画」、「美術」が好きな人による「美術」、等々。そのジャンルを好きな人が作るのは当たり前じゃないかと思うかもしれません。でも、その結果生まれているものは、過去の作品を参照したようなものばかりです。ようするに何々みたいな作品や、何々や何々が混じったような何か。何処かで見たようなものだと言うことです。

もちろん過去の作品を参考したり、参考にすることが一概に悪いわけではありません。例えば、「現代美術の世界」ではむしろ、作家は過去の作品を知って、自分の「現代美術の世界」における寄って立つ位置を説明出来ないといけない、と言われます。コンテキストがどうしたこうしたってやつです。寄れば大樹の影です。それを100%否定したいわけじゃありません。

でも、本当にそれで全てなのでしょうか？

しかも、多くの場合、「世界」と言わされているものは「欧米」とほとんど同意語です。「欧米」の価値観が「世界」のスタンダード。

さらに、恐ろしいのは、過去の何かに似ても似つかないものは認められないということ。

こんな「演劇」（「音楽」「映画」「小説」「漫画」「美術」）じゃない！とか言われて。自分の知っている「演劇」（以下、省略します）らしい作品を作ること、何とかっぽいものをと思い込んでしまっていることは、予め自分の作る作品の大きさ、境界を自分の手で狭めていることなんじゃないでしょうか？

「演劇」（以下、省略）っていうのは、もっと可能性のあるものなんじゃないかと思っています。もちろん思っているだけで実証出来るわけではありません。

（実証って何だ？それより自分の実感しかないかもしれません。）

それを確かめるためには、自分達で作ってみるしかありません。

こんな「演劇」（「音楽」「映画」「小説」「漫画」「美術」）じゃない！と言われながら。もしくは無視され続けながら。

「演劇」を作つてみると演技だけじゃありません。

言葉もあれば、音も、美術も、あとあらゆるいろんなものが含まれています。

いや、もしかしたら言葉も音も美術も要らないかもしれない。

役者だって居なくても良いかもしれません。

無人の演劇だって、僕はあり得ると思っています。

まだ観ぬ演劇に興味ある方はぜひ、ご参加ください。

ちなみにいわゆる演劇の学校で行なわれるであろう基礎訓練みたいなものは一切行なわれないと私は思います。それだって決めてはいませんが。

全ては集まった人達と出会うことから始めます。

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート掲載中

→ 検索 美学校 演劇 レポート

2022年度の開催形式について

今期は本校で座学を、スタジオで演習を交互に行い、最後に修了作品を制作します。これまで前半はどういうものを作りたいのか探っていくためにも受講者とひたすら話すということをして、後半にしたがって具体的に作品化していくための作業を行つて来ましたが、実際に演じてみてることで見えてくることも多いので、スタジオでの演習も並行して行うことにします。

（生西康典）

生西康典

1968年生まれ。舞台やインスタレーション、映像作品の演出などを手がける。作品がどのようなカタチのものであつても基本にあるのは人とどのように協働していくか。

近作は、その日集まつた人たちと、その場でつくり、その日の夜に公演したワークショップ形式の『日々の公演』（2019、BLOCK HOUSE）など。

インスタレーション作品：『風には過去も未来もない』『夢よりも少し長い夢』（2015、東京都現代美術館『山口小夜子 未来を着る人』展）、『おかえりなさい、うた Dusty Voices, Sound of Stars』（2010、東京都写真美術館『第2回恵比寿映像祭 歌をさがして』）など。

空間演出：佐藤直樹個展『秘境の東京、そこで生えている』（2017、アーツ千代田3331 メインギャラリー）。書籍：『芸術の授業 BEHIND CREATIVITY』（中村寛編、共著、弘文堂）。

劇のやめ方

篠田千明

定員：10名
授業日：隔週火曜日 18:30～22:00
教程維持費：15,000円（通額）
※教程維持費は制作実費を含みます。
開催教室：本校＋スタジオ

劇は始めるよりやめるほうが難しい。人前にでたくないというひとは、人前でなにかをやるのが嫌なのではなく、人前でなにかをやめるのが嫌なのでは、とすら思う。社会で起きている劇をやめるのはさらにとても難しい。と言うより、劇を認知することと社会を認知することはほとんど等しい。

つまり、ある劇を共有できることで生まれる社会の中に私たちは生きている。その社会全体を否定するわけではなくて、やめるべき劇があるのではないか。難しいけど、劇のやめ方を考えることはいま必要とされているように思う。

『劇をやめる』そのテキスト自体が、即興的に無数の劇を生み出す。

私は、作家としては、常に即興性を生み出す劇が生き延びるべきだと考える。即興性はより多くの声を吸い込み、より多くの身体を同時に成立させるからだ。ありとあらゆるありえない組み合わせを可能にする、『劇をやめる』という演劇を作る。

この講座では、一年を通じて二回の公演を予定しています。個々人での発表か、全員での発表になるか、それは講座の進行で変わってきます。オンラインでの実験も含んでいます。

演劇には興味があるけど集団はつらい、とか、近くで見るのこわい、とか、そういう人も歓迎です。対象となる年齢やパフォーマンス経験は問いません。誰かの誕生日を祝った経験や、来週の予定を立てる経験があるなら、それは劇を立ち上げた経験がある、ということです。

個人の生活に密着した劇は力強さがあります。

どれだけ多くのタイムラインや場所を吸収できるか、その力強さをぜひ、この講座で私と共有させてください。

篠田千明

2004年に多摩美術大学の同級生と快快を立ち上げ、2012年に脱退するまで、中心メンバーとして主に演出、脚本、企画を手がける。

以後、バンコクを拠点としソロ活動を続ける。「四つの機劇」「非劇」と、劇の成り立ちそのものを問う作品や、チリの作家の戯曲を元にした人間を見る動物園「ZOO」、その場に来た人が歩くことで革命をシミュレーションする「道をわたる」などを製作している。

2018年 Bangkok Biennial で「超常現象館」を主催。2019年台北で ADAM artist lab、マニラ WSK フェスティバル Music Hacker's lab 参加。

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 劇のやめ方 インタビュー

建築大爆発

岡啓輔+秋山佑太

定員：10名
授業日：隔週金曜日 19:00～22:00
(日曜に外部実習行う場合があります)
教程維持費：5,000円（通額）
開催教室：本校+外部

建築家でありながら現場で大工として多くの経験をしてきた岡啓輔と秋山佑太によるハードコアな建築とアートの講座です。本講座はアートと建築の交差点となるでしょう。建築家志望の人も、職人志望の人も、アーティスト志望の人も、今は建築にもアートにも関わりがない人も、この交差点に関心があれば来てください。

文・岡啓輔

アートってのは、すごく遠くにあって崇高で人類の宝みたいなもので簡単には近づけない、ヘッポコなオレなんかじゃ到底無理、、と、基本ビリリまくっているんです。
だけど、人がつくるものの面白さの沢山がそこにあって、知りたい！わかりたい！
願わくばその秘技を手に入れて自分でもアートを作りたい！などと、脳味噌の片方では鼻息荒く思つてしまつてもいます。

少しだけわかった事は、そもそも小手先でひねり出せるような、ハウツー教えてもらえるような簡単なものじゃないって事。深淵な「魂」の問題なのだ！と思つたり、もっとピヨロピヨロ～と軽～く現れてきよつたり、神出鬼没なものですね、アート。

僕は、その「アート」という領域に「建築」をベースにして近づこうと試みている者です。

2005年の暮、穴を掘りはじめ、16年経った今も完成に向かって毎日建築を作っています。建築の名は「蟻鰐鳶ル（アリマストンビル）」。平均寿命35年と言われる短命過ぎる日本の鉄筋コンクリート建築に物申したく作り出したコンクリートは200年は保つ！と太鼓判を押されている。200年！！ビビるなあ、ただ頑丈に作るだけではダメで、200年後の人達にも大切にしてもらえるような建築にしなきゃいけない。200年後ってどんなんだ？想像も出来ないほどの遠い未来でも価値があるモノ、そう考え出したら、もう、アートを考え出さざるを得なくなつたのです。

あと、この2021年、事情があり家を出、ホームレスとなりボロボロになっていました。起きている事態が理解出来ず、人との別れが辛く、悲嘆に暮れていきました。この絶望的な状況から救ってくれたのも「蟻鰐鳶ル」でした。僕がどんなにショゲていようと蟻鰐鳶ルはビカッ！と輝いていた。笑っちゃうほどキラキラしてた！明るい希望そのものじゃないか！！スゲーうれしかった！

蟻鰐鳶ル、今から数年間、全集中で作り上げ鰐！僕は、浮かれてたりグチャグチャだったりすると思うけど「建築大爆発」では、いつでも今考えてる事を正直に話していきたいと思って鰐。

文・秋山佑太

キタナイモノとして扱われてきた場所（又は廃棄された空間）で我々は創造します。キタナイモノが社会のヒエラルキーの底辺にあるという意識を疑い、今こそ自由に物を作るべきです。捨てられた椅子の修理からはじめても良いでしょう。セルフビルドの計画を立てるのも良いでしょう。

現代建築の多くが用途を限定され、ほぼ風化せずに使われ続けています。そんな状況を「建築脳死状態」と私は勝手に呼んでいます。現代の建物は殆ど、建設完了と共に脳死状態です。

都市計画家のケヴィン・リンチは、「廃棄された場所は絶望の場所であるが、多くの魅力がある場所もある。また、様々な管理から解放され、自由な行動と空想を求める豊かさがある。」と述べています。加えて「新しい物・新しい宗教・産まれたての弱いものを保護する場所もある。それは夢を実現させる反社会的行為の場所で、探検と成長の場所である。」と、かなり大胆な視点を提示しました。キタナイモノとして扱われてきた場所（又は廃棄された空間）こそ創造的な空間です。そんな場所を、ひとりひとりが探し、何かを作る準備しています。建築大爆発は、語りの場です。我々は語り、手を動かして、自由に物を作っています。

岡啓輔（建築家）

1965年九州柳川生まれ、一級建築士、高山建築学校管理、蟻鰐鳶ル建設中。ウイークポイントは、心臓、色覚、読書。1995年から2003年まで「岡画郎」を運営。2005年、蟻鰐鳶ル（アリマストンビル）着工。2018年、筑摩書房から「バベル！自力でビルを建てる男」を出版。2019年「のせでんアートライン2019」に参加。

秋山佑太（美術家・建築家）

1981年東京都生まれ。美術家・建築家。作業員や建造物を扱い、移動や集積といった方法で地靈を呼び起こす作品を制作。近年の主な企画展示に、2021年「スーパーピジョン」(WHITEHOUSE・デカameron・東京)、「破線と輪郭」展(ART DRUG CENTER・宮城)、2020年「芸術競技」展(FL田SH・東京)、2018年「モ デルルーム」展(SNOW Contemporary・東京)「新しい民話のためのプリビジュアライゼーション」(石巻のキワマリ荘ほか・宮城)、2017年「超循環」展(EUKARYOTE・東京)「グラウンドアンダー」展(SEZON ART GALLERY・東京)、2016年「バラックアウト」展(旧松田邸・東京)など。

アートに何ができるのか ～次に来る「新しい経済圏」と アーティストの役割を考える

荒谷大輔

アートとは何でしょう。ハイカルチャーと呼ばれたものは「天才」という概念を弄んだ19世紀以降の短い歴史の果てに、今や絶滅危惧種として残っているにすぎません。その代替となったサブカルチャーも、資本主義社会の枠組みを前提にした価値の共有手段になっています。資本主義の狂騒の中で「神」として祀り上げられる芸術家のあり方も、しかし、資本主義の枠組み自体が軋む中で、すり減らされながら余命を数えている段階にあるように思われます。

この講座では、まず現在アートがおかれている社会的な状況を振り返って考えながら「アート」と呼ばれるものの本質を明らかにします。参加者が知らないうちに身に着けている価値観の前提を問い合わせつつ、それでも直観的にはおそらく各人が捉えているアートの本質を、ディスカッションの中で明らかにしていければと思います。

その上で「アートができること」を、私たちが日常を営む生活経済圏をまるごと問い合わせで、実践的に探求していきます。それが、この講座の最終的な目標です。「実践的」というのが非常に重要なところで、参加者（とその周辺の人々）によって実際に、新しい経済圏を作ることが目指されます。美学校という場所はそもそも、そのために作られたのではないかと僕は思っているのですが、校長には確認してません。

これまで積み重ねられてきた数々の試みの上にすでに成立している場のちからを借りながら、今まさにこの時代に実践的学者としてできることを探つていきたいと思います。

みなさまのご参加をお待ちしています。

授業内容

講義とディスカッションを繰り返す中で、講師を含めた参加者が無意識のうちに前提にしている価値観を浮き上がらせていく、それが凝り固まっている場合にはほぐしていきます。否定はしません。マッサージします。深呼吸する余裕があれば、コリは自然にほぐれていくかと思います。身体性大事。もしかしたら参加者の希望に応じて、実際に身体を動かすワークをするかもしれません。

そんな中で、現代の人々の考え方を無意識のうちに規定している歴史的な構造を明らかにし、現状の資本主義社会を越える新しい経済圏の可能性を提案します。講師が近年取り組んでいるブロックチェーン技術を用いた透明性の高い信頼経済圏の提案です。これだけだと何が何やら分からぬとは思います。講義の中で小出しにしていければと思います。これはあくまで提案で、参加者の方々の身体を拘束するものにならないよう十分に気をつけるつもりです。が、少なくとも現行社会の「当たり前」を本質的なところから見直すきっかけにはなるかと思っています。

そうして最終的には、何らかのかたちで「実践」ができればと思います。成り行き次第のところもありますが、その「実践」はアート作品を作ることかもしれませんし、演劇やダンスを上演することになるかもしれません。あるいは、何らかの信頼経済圏を作ることになるかもしれません。

定員：8名

授業日：隔週火曜日 18:30～21:00

教課程維持費：5,000円（通額）

開催教室：本校

荒谷大輔

江戸川大学基礎・教養教育センター教授。専門は哲学／倫理学。主な著書に『資本主義に出口はあるか』（講談社現代新書）、『ラカンの哲学：哲学の実践としての精神分析』（講談社メチエ）、『経済』の哲学：ナルシシズムの危機を越えて』（セリカ書房）、『西田幾多郎：歴史の論理学』（講談社）、『ドゥルーズ／ガタリの現在』（共著、平凡社）など。演劇の脚本を書いたり、ダンス作品のドラマトウルクを担当したり、自分で暗黒舞踏を踊ったりしています（<https://bigakko.jp/event/2021/engeki-shuryokoen>）。

美楽塾

JINMO+不定期でゲスト

定員：10名

授業日：月曜 20:00～22:00

(毎月 1～3回)

※開催日は、参加受講者間で予定調整を行い決定していきます。

教程維持費：5,000円（通額）

開催教室：外部

かつて松下村塾の吉田松陰師はいった、「諸君、狂いたまえ」。

現代の芸術教育などに於いては、"如何に処理して、如何なるアウトプットを実現するのか"ということのみに眼が向けられ、それを当然として疑う者が少ない。

しかし、真実には、そうした技術論以前に "如何なるインプットを" という問題こそ重要であり、良質のインプット無しには良質のアウトプットはあり得ない。

食べたものに応じたウンコしか出る訳があるまい。

美しいインプットに貪欲であれ。

本講義は芸術表現の技法や知識といった "情報" の伝授の場ではない。

五感、総ての感覚器官で対峙する状況における美の "体験" を実感する場としたい。

その為に例え非常識と謗られようと校舎といった限定空間を拒絶し、また決まった曜日・時間といった予めの決め事からも解放された講義にする。

また講義中の飲酒、喫煙、飲食、放尿、飲尿、全裸、自慰、緊縛、女装、Tweet などは完全に OK（総て過去実際におこなわれた）だ。

更に何をしても良いという自由だけでなく、何もしなくても良いという自由も同時に、私は保証する。

頻繁に各界から刺激的なゲストも呼ぼう。

数十世紀の時間の中でエスタブリッシュされた "美学" の中ではなく、歴史的堆積や文化的共通認識といった情報現実のもたらすフィルター類に干渉されない、各受講生中の絶対的な唯一個の "美意識" の天真爛漫な自由奔放を実現したい。

幼子の頃、泥だらけ、傷だらけになる事も厭わず、「晩御飯ですよ」という母親の声も耳に入らず、常識通念も規則規範も社会的承認とも無縁に、日暮れの幼稚園の砂場で一心不乱に遊んでいた時の砂の触覚美、草の嗅覚美、土の味覚美、風の聴覚美、そしてふと眺めた夕焼けの視覚美…、まだフィルターを身に纏わなかったその頃、対峙する状況には豊富な美との邂逅が確在し、美の価値の上下などそこには無く、幼子の五感に世界は美しかった。

今日において成長や学習とは果たして、世界をより美しく知覚させてくれるのだろうか。

畢竟、美とは学ぶものなのか。

諸君、"美楽塾" とは、永遠の砂場である。

共に世界を遊び狂い、美を楽しみ狂おう。

諸君、狂いたまえ。

JINMO

書家を母に持ち、幼少期から書を始める。絵画、書、コンピュータ・グラフィックス、アニメーション等、表現のメディアやジャンルに拘らない視覚芸術を創出する一方、ギター奏者としても活動。国内はもとより海外で数百回に及ぶ公演をおこなっている。また、『ギター・マガジン』にコラムを連載するなど、多方面に活躍する。

過去のゲスト講師

遠藤ミチロウ（ミュージシャン）、クラース・ヘックマン（ミュージシャン）、GMナイル（ナイルレストラン店主）、なつみ女王様（BDSM）、大野慶人（舞踏家）、クリストフ・シャルル（武蔵野美術大学准教授・メディアアート）、岡田聰（精神科医 / MAGIC ROOM??? オーナー）、住倉カオス（猥談家）、いくさばら とれは（肉体改造）、珍佐清（浅草ロック座総監督）、安達かおる（監督、V&R 代表）、浅井隆（アップリンク社長、映画プロデューサー）、山田聖子（株式会社アートジャパン代表、靖山画廊代表）、Abe "M" Aria（ダンサー）、スティーヴ エトウ（パーカッショニスト、重金属打楽器奏者）、Jan Marsupials Spanedal（パーカッション・ドラム奏者、"Marsupium Massacre" 代表）、Jaakko Saari（ドキュンタリー映像作家・フォトグラファー）、Kid'O（ショップ "Kurage" オーナー、Specializing in latex art）、ANANYA（媒体業）、白柳龍一（ナクソス・ジャパン株式会社 取締役副社長 COO）、瀧川虚至（メカニック・イラストレーター、画家）、小倉正史（美術評論家）、山岸厚夫（漆象、漆工芸作家）、Dawn Mostow（ファッショントレーナー）、ダニー田中（マジシャン）、久住昌之（漫画原作者）、上祐史浩（「ひかりの輪」（東西の思想哲学の学習教室）の代表）、臼井欽士郎（プロボクサー）、山浦嘉久（思想活動家 国際政治研究家）、Chris Cardone（Bass Player）、坪内隆彦（ジャーナリスト、『月刊日本』編集長）、武田崇元、山岸厚夫・山岸芳次、マリア、杉原悠久、木戸茂成、坪内隆彦（ジャーナリスト、『月刊日本』編集長）、小室芹奈（元AV女優、緊縛師、タレント）、牧田碧（歌人）

JINMO

☆もっと詳しく知りたい方は ...

WEB で講座レポート、受講生座談会を掲載中

→ 検索 美学校 美楽塾 レポート（または座談会）

美学校 本校 見取り図

美学校は、神田神保町の路地にある貸しビルの3階にあります。1970年にこの場所に越してきてから50年が経ちました。歴史を経て作り上げられてきた美学校の内部をご紹介します。



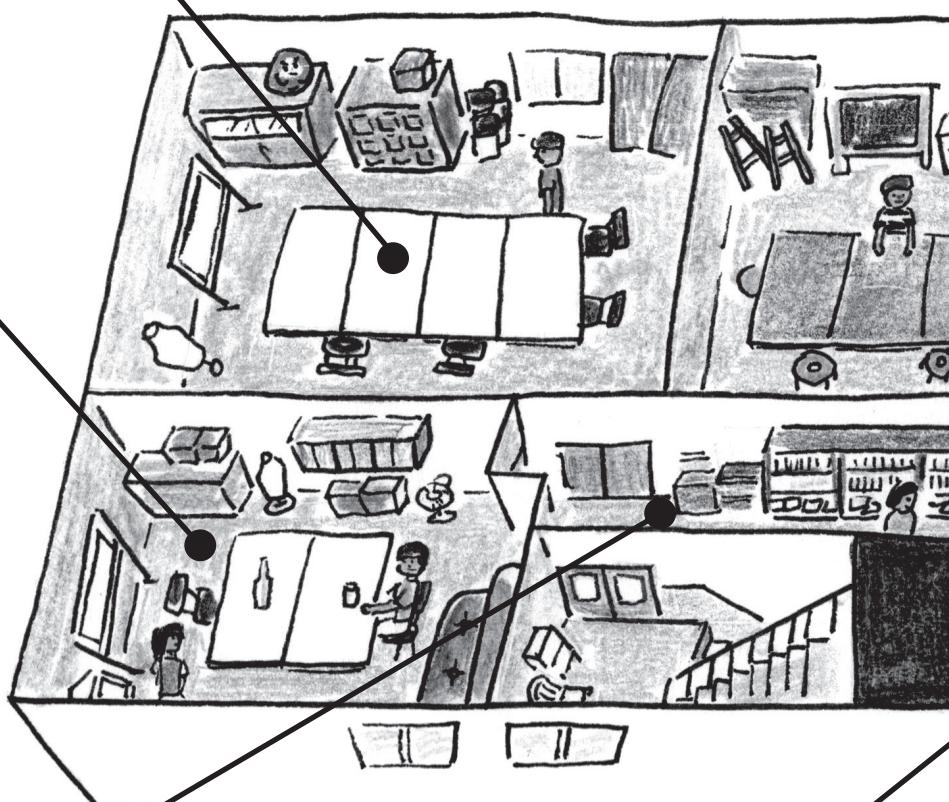
教場 1

通常の授業で使用しています。普段は合板を5枚並べたテーブルを囲んで授業を行っています。土日は、テーブルを片付けて、イベントやワークショップを開催することもあります。



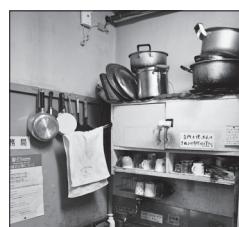
小教場

講義系の授業が行われていたり、当校代表の藤川が本を読んでいたりします。相談事があれば藤川へ。入学相談から人生相談まで色々な話を聞いてくれます。授業時以外は開放しているので、気軽に入ってみてください。



廊下

展覧会やイベントのチラシやポスターがはられていたり、本棚には1970年代からの『ガロ』や『美術手帖』など貴重な本があつたりします。本棚の一画は棚ガレリという小さなギャラリーがあります。チラシは自由に置いてください。



流し

歴史を経て、調理器具や食器が自然と揃いました。冬になるとみんなで鍋を作ったりする講座もあるようです。

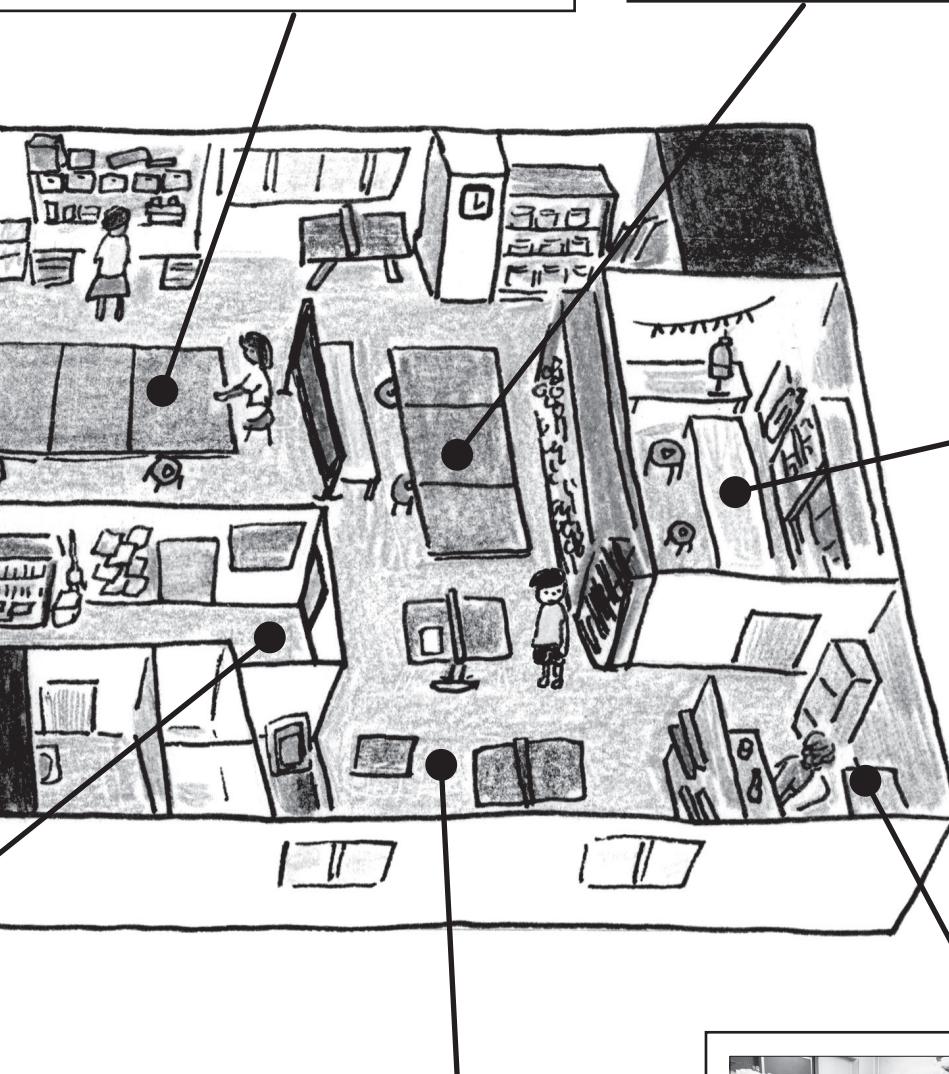
教場 2

教場 1 と同じ広さの教場です。こちらも通常の授業で使用しています。手作りの大きなライトテーブルや版画の製版用の露光機などがあります。



自習スペース

自習や課題の制作に使われているスペースです。長年美学学校に通っている人もここで作業しているので、スペースの使用でわからないことがあれば聞いてください。



暗室

写真工房の授業で使用している暗室です。写真工房の受講生はいつでも使用できます。



水場

石版画で使う石版石の石研ぎやシルクスクリーンの製版、銅版の腐食、アクアチントなどもここで行っています。



事務局

運営スタッフがいる部屋です。入学手続きやご質問はこちらでどうぞ。

イラスト：是澤ゆうこ

Q & A

▼入学試験はありますか？

ありません。申込みをして学費を納入すれば、誰でも入れます。年齢や学歴による制限もありません。

▼高校生ですが入れますか？

入れます。不安があればご相談ください。

▼未経験者でも大丈夫ですか？

大丈夫です。どの講座でも、経験者と未経験者が混じって受講していますが、原則的に未経験者を前提として授業を進めていきます。ただ音楽系の一部教程では、経験者を前提としている講座がありますので、ご注意ください。その場合は、講座のページに明記しています。

▼学校見学会や説明会はありますか？

あります。毎年冬から春にかけて月3回程の頻度で行っています。見学会・説明会以外にも、個別の学校見学や入学相談など随時受け付けていますので、ご希望の方は、気軽に問い合わせください。

▼申込み時期はいつですか？

5月期（新年度）の募集は、前年の12月後半から、10月期（編入）の募集は、8月中旬頃から開始しています。申込み締切りは、5月期は3月末、10月期は9月末です。先着順ですので、お早めにお申込みください。

▼1クラスの平均人数を教えてください？

少ないところで2,3人から、多くても10人程度です。楽理基礎科のみ15人程で授業を行っています。

▼課題はどれくらい出ますか？

講座によって異なりますが、社会人の方も多く来ていますので、そういった方々が時間的にこなせないような量の課題が出ることはありません。

▼授業見学はできますか？

できます。連絡なしでいきなり授業見学に来ていただいても構いませんが、学外で授業を行っている場合もあるので、念のため事前にお問い合わせください。

▼修了試験はありますか？

ありません。講座の修了について、試験や単位、修了制作などの制限が課されている講座はありません。

▼授業以外の時間で教室は使えますか？

使えます。午前中は授業がないので、いつでも使えます。午後と夜は、授業が入っていない時であれば使えます。使用目的としては、制作や受講生同士のミーティングなどが多いですが、たまに飲み会なども開かれているようです。使い方でわからないことがあれば、事務局スタッフに聞いてください。

▼どんな人が来ていますか？年齢、職業、男女比を教えてください。

老若男女様々な人が来ています。高校卒業後に来る人、大学（美大生だけでなく一般大生も）や専門学校に通いながら来る人、大学や専門学校を卒業して来る人、フリーター、社会人、会社を辞めて来る人、主婦、留学生など年齢や職業は様々です。年齢層は、美術系の講座は20代～30代が多く、音楽系の講座は30代が多いです。男女比は、美術系の講座は、6:4、7:3ぐらいで女性が多く、音楽系の講座は、8:2ぐらいで男性が多いですが、少人数のため年によって大きく変わることがあります。

▼修了生はどんな活動をしていますか？

本当に様々な仕事、活動をしています。中には、著名なアーティスト、イラストレーター、デザイナー、編集者、漫画家（etc.）などになった人もいますが、表に名前が出ない人でも面白い活動をしている人、いい作品を作り続けている人は数多くいます。また、美学校を出てから何かになるのではなく、既にアーティストやデザイナー、イラストレーター、ミュージシャン、編集者（etc.）として活動している人たちも来ています。

▼資格が取れたり就職できたりしますか？

資格を取るための講座は開講していません。就職の斡旋もしていません。資格や職を求めてこの学校に来る人はいないようです。

▼子どものクラスはありますか？

あります。NPO法人AEss主催で「子どものアトリエ」という講座を小学生対象で開催しています。詳細は美学校のWEBをご覧ください。

ハラスメントに関する基本方針

1969年の開校以来、受講生の国籍・年齢・性別・学歴不問を掲げてきた美学校は、いかなるハラスメントも容認しません。多様な価値観の人が集う場として、すべての受講生・講師・スタッフが、一人の人間として尊重されるよう、ハラスメント防止に努め、万が一かかる事態が生じた場合には、適正に対処します。

1. ハラスメントの定義

当校で起こりやすいハラスメントとして、以下の2つについて定義と事例を示します。下記以外にも様々なハラスメントが存在し、複数のハラスメントが絡み合って生じる場合もあります。

・セクシュアル・ハラスメント

相手の意に反する性的な言動によって相手に不快感や不利益を与え、就労や就学環境を損なう行為のことです。セクシュアル・ハラスメントにあたるかどうかの判断は、その言動を受けた本人が不快に思うか否かによります。

スリーサイズなどの身体的特徴を話題にしたり、性的な経験について質問したりする。「男のくせに」「女のくせに」といった、性別で差別しようとする意識に基づいた発言をする。(ジェンダー・ハラスメントとも呼びます。) 性的指向や性自認をからかいの対象とする。ヌード写真などをわざと見せたりする。個人的な指導と引き換えに性的な関係を要求したり、執拗に食事や酒席に誘ったりする。要求を拒否されたために、受講生を展示に参加させないなどの不利益を与える。など。

・アカデミック・ハラスメント

講師等が、意識的か無意識的かを問わず、自身の優位な立場や権限を不当に利用し、受講生の受講意欲や受講環境を著しく低下させる言動や指導のことです。

講義上必要のない授業の手伝いや私的な雑用を押し付け、断られたら叱責する。特定の受講生を他の受講生と差別して、必要以上に厳しい課題を課す。指導の範囲を超えて人格を否定する言動や脅迫的な言動を行う。求められた指導を正当な理由なく拒否する。など

2. ハラスメントを起さないために

何を不快に思うかは個人によって異なります。ハラスメントに当たるか判断がつかないときは、自分の家族や友人に同様の言動が向けられた場合を想像してください。また、講師と受講生の間に、NOと言えない力関係が図らずも存在していないか意識することを日頃から心がけてください。

自分の家族や友人に同じ事が言えるか、できるか。自分の家族や友人が同じ事を言われたら、されたらどうか。家族や友人に見られていても同じことが言えるか、できるか。

3. 被害に遭ったら

不快だと感じる言動を受けたら、我慢せずにそのことを相手に伝えてください。相手が不快感をもたらしていると気づいていない場合もあるので、不快であることを口頭または文書で伝えることで、解決可能な場合もあります。その場で伝えにくい場合や、抗議をしても言動が改まらない場合は、速やかに事務局に相談してください。必要に応じて外部機関と連携しながら問題解決に努めます。その場で拒否できなかつ自分が悪いのではないかと自分を責めたり、他の受講生に迷惑がかかるのではないかといった心配をする必要はありません。相談や情報提供にあたり、相談者や情報提供者のプライバシーは保護されます。また、相談や情報提供をしたことによる、不利益な取り扱いは行いません。なお、ハラスメント行為を受けたら、いつ、どこで、どのようなことを言われたか・されたかといった記録をとっておくと、問題解決時に役立ちます。

【相談窓口】 美学校 本校・事務局

T E L : 03-3262-2529 (平日 13:00 ~ 18:00) メール : bigakko@tokyo.email.ne.jp

4. ハラスメント防止のための啓発

あらゆるハラスメントの防止のため、本指針を講師・受講生に配布するほか、希望者には映像資料の貸出や講習の案内を行うなどして周知、啓発に努めます。

プライバシーポリシー

有限会社美学校（以下「当社」といいます。）は、当社の提供するサービスにおける、お客様の個人情報の取扱いについて、以下のとおりプライバシーポリシーを定め、その適正な取扱いに努めます。

1. 個人情報の取得

当社は、お客様に当社のサービスをご利用いただく場合や、サービスに関する情報を提供するために、お客様の氏名、性別、住所、電話番号、メールアドレス等の個人情報をご提供いただく場合がございます。

2. 個人情報の利用目的

当社は、お客様からご提供いただいた個人情報を以下の目的のために利用します。

- ・入校受付、本人確認および学籍作成のため
- ・学費のクレジットカード決済のため
- ・オーブン講座、公開授業、ワークショップ、その他各種イベントの予約受付等の対応のため
- ・学校連絡および授業連絡のため
- ・資料、募集要項の発送のため
- ・問い合わせへの回答のため
- ・見学、受講相談の対応のため
- ・Eメールマガジンの配信のため
- ・個人を特定しない範囲での統計的な利用のため
- ・上記の目的に付随する利用目的のため

3. 個人情報の第三者への提供

ご提供いただいた個人情報は、個人情報保護法その他の法令に基づき開示が認められる場合を除くほか、あらかじめお客様の同意を得ないで、第三者に提供しません。但し、次に掲げる場合はこの限りではありません。

3-1. 当社が利用目的の達成に必要な範囲内において個人情報の取扱いの全部または一部を委託する場合

3-2. 合併その他の事由による事業の承継に伴って個人情報が提供される場合

3-3. 国の機関もしくは地方公共団体またはその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、お客様の同意を得ることによって当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがある場合

3-4. その他、個人情報保護法その他の法令で認められる場合

4. 個人情報の開示

当社は、お客様から、個人情報保護法の定めに基づき個人情報の開示を求められたときは、お客様ご本人からのご請求であることを確認の上で、お客様に対し、遅滞なく開示を行います（当該個人情報が存在しないときにはその旨を通知いたします。）。但し、個人情報保護法その他の法令により、当社が開示の義務を負わない場合は、この限りではありません。

5. 個人情報の訂正および利用停止等

5-1. 当社は、お客様から、（1）個人情報が真実でないという理由によって個人情報保護法の定めに基づきその内容の訂正を求められた場合、及び（2）あらかじめ公表された利用目的の範囲を超えて取り扱われているという理由または偽りその他不正の手段により収集されたものであるという理由により、個人情報保護法の定めに基づきその利用の停止を求められた場合には、お客様ご本人からのご請求であることを確認の上で遅滞なく必要な調査を行い、その結果に基づき、個人情報の内容の訂正または利用停止を行い、その旨をお客様に通知します。なお、合理的な理由に基づいて訂正または利用停止を行わない旨の決定をしたときは、お客様に対しその旨を通知いたします。

5-2. 当社は、お客様から、お客様の個人情報について消去を求められた場合、当社が当該請求に応じる必要があると判断した場合は、お客様ご本人からのご請求であることを確認の上で、個人情報の消去を行い、その旨をお客様に通知します。その場合、お客様が抹消された個人情報に基づいて利用されていた当社の提供するサービスは停止され、そのサービスのお客様の利用資格は失われます。

5-3. 個人情報保護法その他の法令により、当社が訂正等または利用停止等の義務を負わない場合は、前2項の規定は適用されません。

6. お問合せ

当社の個人情報の取扱いに関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

有限会社 美学校

住 所：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第2富士ビル3F

T E L : 03-3262-2529 (平日 13:00 ~ 18:00)

メール：bigakko@tokyo.email.ne.jp

×モ

×モ

×モ

新型コロナウイルスの感染拡大防止について

当校では感染拡大防止のため以下の対策を行っております。恐れ入りますがご来校の際はご協力いただけますようお願い申し上げます。

- ・校舎および教室では常時換気を行なっております。
- ・来校者・受講生の方々や講師・スタッフの健康と安全を考慮し、マスクを着用して勤務させていただくことがありますがあてた承ください。
- ・アルコール消毒液を設置しておりますので手指の消毒にご協力ください。
- ・マスクの着用、咳エチケット、ソーシャルディスタンスの確保などにご協力ください。
- ・発熱などの風邪のような症状があるときや、体調が優れないときは、来校をお控えください。

美学校 本校／事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第2富士ビル3F

TEL. 03-3262-2529 (受付時間：平日 13:00 ~ 18:00)

E-mail. bigakko@tokyo.email.ne.jp

美学校 スタジオ

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-6 宮川ビル 1F (袋小路奥)

※郵便ポストはありません。郵便物は本校にお送りください。

美学校 岡山校

〒700-0011 岡山県岡山市北区学南町 2-7-4

LIVE HOUSE PEPPER LAND 内

<https://bigakko.jp>

